

令和2年度 学校関係者評価報告書

NO. 15

市川市立信篤小学校

		確かな学力	豊かな心	健やかな体	信頼される学校
1	実施重点	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本を重視し、求めて学ぶ児童を育てる学習指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育及び道徳教育の充実を図り、いじめ・不登校のない学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体に関心を持ち、体力向上・生活リズムの確立を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 人の思いに寄り添うとともに、学校からの積極的な情報発信を目指す。
2	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導は、「学年としてどのように展開するか」を指導者間で共有する必要がある。 家庭学習の位置づけが、臨時休校中の課題内容も含め課題である 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての児童にとって学習しやすい環境整備が必要である。 コロナ禍での特別支援学校、民生児童委員などのネットワークを生かすことが難しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍ではあるが、学校生活ガイドラインに沿って、体育科の学習を行う必要がある。 保健・給食・体力向上を包括した研究部会を基盤として取組を見直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月からの休校期間は学校からの情報発信はホームページまたはメールでの情報発信のみだった。 近隣の幼中高特別支援学校等との連携を図ることが難しい。
3	具体的な方策	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導は、ねらいを共有し、休み時間などの個別指導に努めた。 第2学年児童対象の寺子屋教室及び第3学年以上の自習室開放を9月より実施してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点に立った環境整備を進めた。 特別支援コーディネーター主導による専門員の訪問や当該児童に関する会議を計画的に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活ガイドラインに沿って三密の回避等を考慮した体育科の学習を進めた。 家庭での生活（睡眠、朝食施主等）を振り返る取組を実施し、家庭への啓発も行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月2回、学校だよりを通じて学校の方針や取組を紹介し、緊急の対応連絡等はメール、紙媒体で適宜行った。 他の学校との連携は情報共有のみであった。
4	達成状況 5：十分達成できた 1：全くできなかった	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
		平均3.8	平均4.1	平均4.2	平均4.3
5	学校への意見	別紙参照			
6	市教委への意見	別紙参照			

【別紙】

令和2年度学校関係者評価「5 学校への意見」及び「6 市教委への意見」について

1 学校への意見

(1) 全体

- ・コロナ禍でも、学校は実施可能な範囲で努力していることを感じる。
- ・消毒、検温、換気など気苦労と作業が増大している教職員の健康が心配である。
- ・児童の登下校に出会うことがあるが、元気な様子を見ると学校が楽しいのだろうと思う。
- ・児童と接すると、心が洗われた気分になる。明るく純朴な児童の良さをますます引き出していきたい。

(2) 確かな学力について

- ・先生方の努力によりできるだけ学習の遅れを補填することができたのではないかと思う。
- ・児童の自発的な学びの確立は、まだ途上にあると感じた。
- ・9月から、自習教室やまなびくらぶ（放課後学習）ができてよかった。
- ・自宅学習については、個人差がみられるようだがプリントだけでなく、インターネットでも行えるとよい。

(3) 豊かな心について

- ・豊かな心を持つ先生が、豊かな心を持つ児童を育てると信じている。
- ・先生方が学校行事や授業を工夫し実践していることに感謝している。「やさしい心」を育てるとりかかりとして、あいさつは有用である。児童が気持ちよく挨拶できるようになるために、学校と家庭で協力してほしい。
- ・児童はマスクをしていても目はキラキラと輝き、表情はとても明るかった。
- ・不登校児童への取組として、教育相談週間の実施を続けてほしい。併せて、コロナ禍での児童のストレスへの対応もお願いしたい。

(4) 健やかな体について

- ・学校からさらに家庭に向けた生活リズムの改善を促すことを希望する。
- ・児童も、手洗い・消毒・マスク着用といったコロナの予防を行いながら、学校生活を送ることができた。半面、児童の運動不足や体力の低下、生活の乱れなどが問題視されている。問題を共有し、状況の改善に努めてほしい。
- ・家庭での生活（睡眠、朝食摂取等）を振り返る取組は良いことだと思う。

(5) 信頼される学校について

- ・学校生活が通常に戻るまでは、引き続き情報発信を行い、学校の様子や取組を紹介することが大切である。
- ・情報発信もスピードアップされている。今後は地域の方々との交流の場を設けてほしい。
- ・ホームページの学校だよりで誰でも学校の取組がよくわかり、ブログで児童の様子もわかる。メールを活用した連絡体制も保護者にはありがたいと思う。
- ・コロナ禍という特別な状況で、学校はできることをしっかりやっていると思う。

2 市教委への意見

- ・小中一貫校以降に向けて進んでいるが、もっと保護者の意見を広く収集し、不安を解消する方法を検討してほしい。
- ・各学校の負担が軽くなるための予算獲得をお願いしたい。
- ・教職員の配置については、リーダーとなる人員の確保をお願いしたい。